

程よい緊張感を味方にする学習空間の提案

C1222577 吉田佳織

[これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する。]

① 共感

私は空きコマに図書館を利用し、自主学習を行った。その際に感じたことは3点ある。まずは、施設の温度に対する不満である。やや肌寒い日に利用したが、暖房が効きすぎているように感じ、汗ばむなかでは勉強に集中できなかった。次に、自分と飲食禁止のルールとの相性の悪さである。暖房が効きすぎていることと関係があるが、暑さと乾燥で喉が渇く。また眠気防止や気分転換として飲み物を飲みたいとたびたび思った。しかし、図書館はラーモンズやカフェテリアよりもほどよく緊張感があり、不満はあれどこに来ると勉強する気合いは入ると感じた。

② 課題定義

このことから、私は自習のために利用する図書館という観点から検討していく。感じたことから考えられる顕在的ニーズは、自分に合わせて快適な環境で勉強したいというものだ。図書館は公共の場であり、ルールを守って不満は我慢する必要がある。しかしその環境下で長時間の集中はできなかったため、個人の要望を満たせる場所が必要である。

次に潜在的ニーズとして、勉強をするスペースとして、図書館には集中している人が多くいることがモチベーションになっているため、勉強する人だけが利用するスペースがあるといいのではないかと考える。

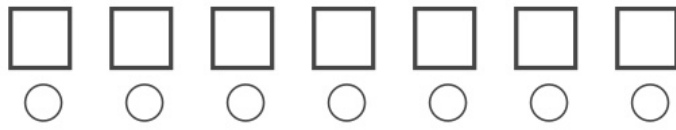
以上の考察から、「ほどよい緊張感と自由を両立させること」を課題に定義する。

③ プロトタイプ

ほどよい緊張感と自由を両立させるために、図書館内の「集中と緩和の自習室」をコンセプトにしたい。

具体的なプロダクトは、飲み物を持ち込み可とし、一人一人の席の間に区切りを設置した自習室だ。夏には扇風機を複数台設置し、冬には足元用ヒーターを複数台設置し、利用者がそれぞれ温度を調整できるようにする。

また、人には深く集中できる時間の波があり、それは15分周期であるという理論に則り、時間管理ができるようにタイマー機能のある小さい時計を各席に置く。この時計を活用することで、計画を立てて効率的に勉強が出来るようになる。

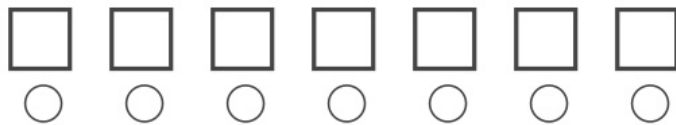
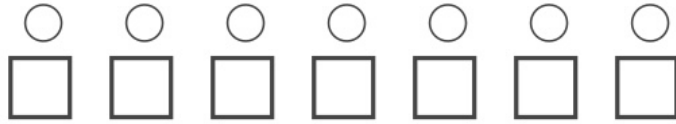


イメージ図

机の間には仕切りがある

足を伸ばせるスペースがある

机には小さい時計を置く



④ 期待される効果

学習室を利用することで、その人のもつ能力を引き上げ、学習の効果を高めることが期待できる。この学習室は、周りに人がいるという小さな緊張感がある。また、図書館よりも温度調節がしやすく、快適で自由な時間が過ごしやすい。そのため、人目のある中で気持ちよく勉強ができる。また、集中力の波を活用するための時計により、効率的な勉強が可能だ。さらに、時間を可視化することで達成感に繋がり勉強を継続するモチベーションに繋がる。

参考 朝日新聞デジタル.“集中力の維持と長期的な学習効果につながる方法”.

http://www.asahi.com/ad/15minutes/sp/article_02.html